

「ほうじょう」コラム

令和7年5月19日

題 漁業調査指導船「ほうじょう」の船員が変わりました。

船長 三輪洋介

令和7年度4月より「ほうじょう」の船長を拝命しました三輪です。自分は神奈川県の出身ではありますが、秦野市という山に囲まれた場所で高校生まで過ごし、その後、航海士としての勉強を経て現在に至ります。江の島でヨットを習っていた時期もあり、生まれ育った県の海洋調査ができることはとても嬉しく感じております。まだまだ若輩者ではありますが、多くの方々にご教授いただきながら、成長していけるよう精進いたします。

次に、今年度より「ほうじょう」に配属になりました二名の挨拶となります。

4月1日付で漁業調査指導船「ほうじょう」の機関担当となりました新地です。

3月までは三崎港にある「江の島丸」の機関士として勤務していました。

「ほうじょう」の機関担当は私一人という体制ではありますが、何かトラブルがあった際にも冷静に対処できるよう常に準備と心構えをもって業務にあたっております。

江の島丸で勤務する前は、漁業に関係のない分野で船舶勤務をしていましたので、他の船員より、漁業に関する知識が浅く学ぶことばかりですが、日々の業務を通じて知識と経験を積み重ね神奈川県の漁業に役立てるよう努めます。

皆様、初めまして。本年度より水産技術センター相模湾試験場の調査船「ほうじょう」に配属となりました甲板員の結城と申します。簡単な自己紹介と目的意識を書きましたので、拙文かとは思いますがご容赦ください。

神奈川県三崎水産高等学校(現・神奈川県立海洋高等学校)卒業後、遠洋航海業務を数年間経験し、その後県内の定置網漁業を十数年間従事させていただき近代水産業の背景を肌で感じて参りました。

海洋環境の変化、水産資源の枯渇、一部を除いての全体的な漁獲量の低迷、それに伴った水産業の縮小と漁業者の減少。自然環境を自分達の理想と呼べる状態に僅かでも回復、または保全していくことは大変困難な事です。しかし、今回所属する相模湾試験場ではその海洋環境保全・改善への取り組み、研究が精力的に成されています。海藻類の試験畜養、貝毒プランクトン調査、水質調査、ドローン撮影による河口付近の形状調査、海洋観測ブイによる潮流の把握。水中ドローンでの海底観察や定置網の海中状況確認など、その調査業務は多岐に及びます。

これらの観測・調査業務及び新たな海洋改善への取り組みに今までの経験や知識を活かし、より良い工程や結果を出せるよう少しでもお役に立てることができればと思い、これからも日々尽力していく所存です。

水産業の未来を少しでも明るいものにし、次世代に繋げるべく努めて参りたいと思います。

漁業調査指導船「ほうじょう」は平成 27 年 2 月 18 日に進水し、今年 10 年を迎えました。当時建造に携わられた人たちの思いや考えに満ちた機能性。また、これまで「ほうじょう」に勤めた人の細かなところまで行き届いた整備を感じる綺麗な船体。その節目の年に船長として就任できたことは非常に誇らしく感じております。

結城技師の言葉にもありましたが、相模湾試験場では刻々と変化を続けていく海洋環境に対し、どのように向き合うか。同時に本県の漁業促進をしていくためにはどのような取り組みを行うべきなのか。を日々考え続けています。ここで勤務をすることで多くのことを学び、また神奈川県の水産振興の一端を担えるよう一丸となって励む所存であります。